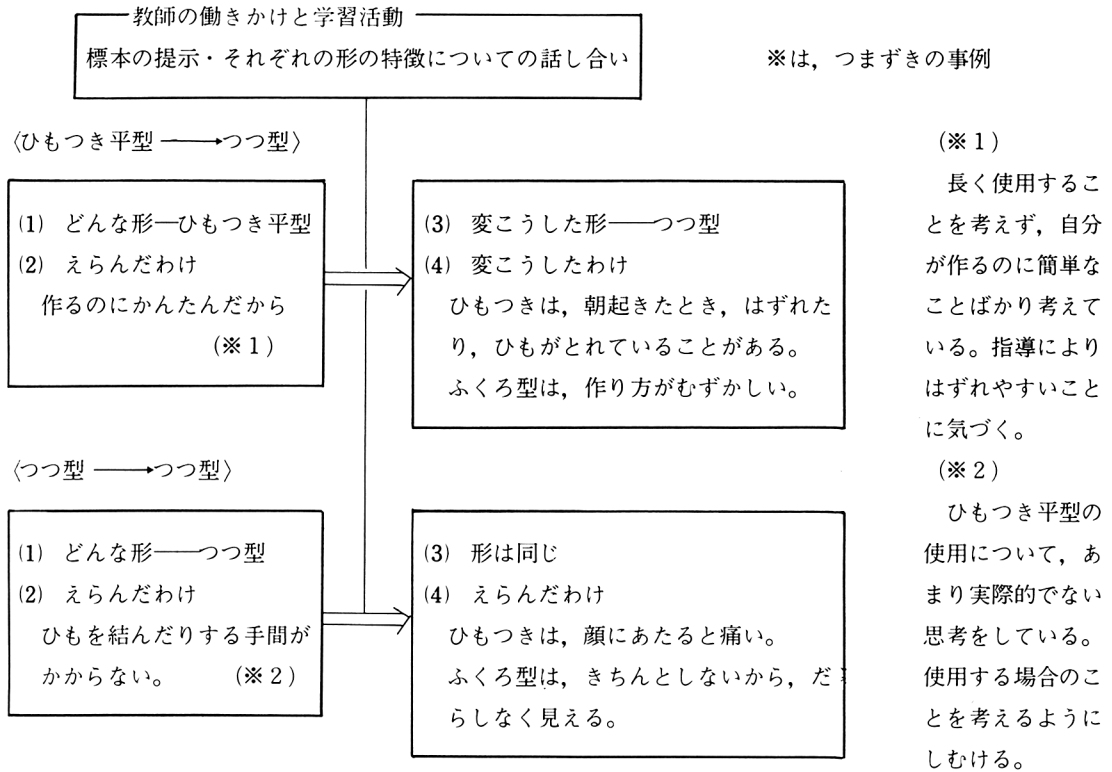


④ 形の選択について

形は、中身の大きさに合わせることを条件として選択させた。本時の授業により、事前テストと比べて考え方が変わる傾向がとらえられた。なお、事前

テストは、前提能力の下位テストとして、本時の内容を中心に調査したものである。



この2例でわかるように、始めは表面的なことをとらえていた児童が、標本の観察や話し合いにより、実際的な考え方に変わってきている。実際に作ると

きのこと、使うときのことを予想して考えられるようになり、思考の深まりが見られる。学級の全体的な傾向は、次のようである。

〈えらんだ形〉	1 回目	2 回目
つつ型	57.1%	68.5%
ふくろ型	40.1%	31.5%
ひもつき平型	2.8%	0%

〈えらんだわけ〉 つつ型の場合

- |               |           |
|---------------|-----------|
| ○カバーがとれにくい。   | ○作りやすい。   |
| ○材料が少なくすむ。    | ○出し入れが簡単。 |
| ○まくらの形に合う。    | ○形がよい。    |
| ○大きさに合わせて作れる。 | ○使いやすい。   |

ここには、つつ型の理由しか示していないが、児童は、それぞれの形の特徴として考えられるものをよくは握しており、形の選択の際にかなり具体的に思考していることがわかる。また、3つの形につい

て比較検討して考えており、自分のまくらの状態(形や大きさ)・ねぞうの悪さなどから、必要に合わせて作ろうとする態度が見られた。